

編 集 後 記

社会保障費-2,200億円削減、卒後臨床医研修制度が医療崩壊に繋がっている現在ではありますが、医療に携わる人達は献身的にもくもくと医療に、研究に、教育に、福祉にと頑張っています。今月号も多数のご投稿を有難うございました。

生涯教育講座：高齢化が進むと共に呼吸器生活習慣病と呼ばれている肺癌、慢性閉塞性肺疾患で死亡する人が増加している。その予防、早期診断には専門医の育成が重要である。肺疾患治療は癌分子標的治療の導入で大変革を遂げている。COPDは喫煙による生活習慣病であり、その診断、治療、予防が近年ますますクローズアップされている。肺癌、COPD、肺炎での死亡が増加しており、専門医は勿論、日常診療に携っている医師も認識を高める必要がある。

総説：幼児期の聴力は音声認識発達の基礎をなすので、新生児聴覚スクリーニングが重要である。要精密検査が必要である新生児の場合、母親に心の負担をかけないように告知することの難しさがあり、母子のコミュニケーションの大切さを説明し、自然な育児を確保できるように指導することが重要である。

臨床・研究：「島根県感染症動向調査からみた成人水痘」では、高リスクの成人水痘が増加しており、ワクチンの定期接種の効果が報告されている。「新規血液透析導入患者についての検討」では糖尿病性腎不全と非糖尿病性腎不全の比較がなされ、糖尿病性腎不全では低アルブミンがあり、血清クレアチニン、BUN低値での導入が多く、内シャント作成時期の見極めと患者教育の重要性が指摘されている。「出雲市におけるマンモグラフィ検診の現状」では、「癌対策推進基本計画」の目標値に達することは難しく、バス検診導入の必要性が述べられている。このほか「血液透析により高アンモニア血症の増悪をみた肝硬変合併2型糖尿病の1例」では、透析後に増悪する高アンモニア血症や肝性脳症ではPortal-systemic shuntの存在を考えるべきだとされている。症例では「強皮症を合併したバセドウ病」など貴重な報告もみられる。

このほか第16回島根臨床神経病理セミナー、第12回島根新生児研究会の抄録も掲載することができました。

今後とも「島根医学」への投稿よろしくお願いします。

(M・I)

島根医学編集委員

沖田 瑛一， 西野 泰生， 錦 織 優， 伊藤 是箇， 葛尾 信弘，
岩本 正敬， 児玉 和夫， 益田 順一， 信太 秀夫， 佐藤 比登美，
中川 正久， 小林 祥泰， 徳島 武

島 根 医 学

平成21年3月31日発行

発行者 島 根 県 医 師 会

編 集

浜田市蛭子町

編集者 沖 田 瑛 一

発行所

松江市学園南2丁目3番11号
有限会社 松 陽 印 刷 所